力を結集して春闘に決起しよう

分裂・御用化に対決する 全国研究集会の成果

初の集会で熱心な討議

総評本部主催で二月二、三、四の三日間、東京・全逓労組会館でひらかれた「分裂・御用化攻撃に対決し、組織の強化と拡大をはかる全国研究集会」は、二五の産業別労組と三〇の地評の代表ら一二六名によって、いま最も緊急な問題としての決意を確認し合い多大な成果をあげた（三池は灰原書記長）。

第一日は各産業別代表の報告と質疑を行ない、第二日は組織強化のための真剣な討議をかわし、第三日に「集約」を行なったが、大綱は次のとおりである。

問題点はどこだったか

きわめて多い問題点のうち、重要な討議だけをあげると——

①大衆斗争路線の強化

太田議長は「接吻するためにはまずお互いに近よらなければならない」という軽妙な表現で、指導部は大衆に接して実情をつかめ、と強調したが、このことは分裂・御用化に対決する原則である。

各組合の分裂経過をふくめて、全員が大衆斗争路線の不十分さを認め、この意味で「五人組制度」による小さな団結が重視された。

さらに、味方の正しさと敵の不当をハッキリ一人ひとりの組合員が確認できるような指導が大切であり、たとえば合理化攻撃についての表示などに工夫をこらすべきであることが討議された。

②反合理化斗争は土台だ

分裂・御用化攻撃の本質は、あくまで一方的な合理化政策であるから、いまや各組合のたたかいの土台が反合理化斗争であることが確認された。

そして全体の前進のためにも、大幅賃上げのたたかいを徹底しようということが討議された。

合理化強行の背景をついて、全体的な政治・経済情勢を正しく大衆次元のものにしようという熱心な意見が出された。

③分裂問題の今日的意義

分裂で肩味のせまい思いをしたり、させられたりする風潮があるが、分裂攻撃のなかで「抵抗斗争」の意義が正しく把握されるし、何よりも「ひとりの組合員」をめぐる真剣な争奪のなかで真の団結・真の組織強化が発展しつつある分裂させられた組織では「第二組合対策」と呼ぶが、分裂していない組織では第二組合対策にかわって「組織再強化対策」がきわめて緊要となっている。

この場合、分裂させられている組織の経験や諸対策が、最大限に活用されるべきである。

したがって、分裂・御用化研究は、いまや日本労仂運動全体の重要な組織課題である。

④統一問題について

さきごろ第一組合の完全な主体性のもとで統一をかちとった淀鋼から「統一を横目にすることはいいが、統一をあせることなく、まず抵抗斗争のなかで組織の力を強化することが先決だ」という意見も出され、抽象的だが立派な組合員、立派な指導を確立することが徹底的に追求されるべきだ、という意志集約がなされた。

⑤地域斗争の重要さ

地域で労仂者が主力となるたたかいの実践が、企業内観点の弱さをも必ず克服することになる。

組織内はもちろんだが、地域でも統一行動がより強化されるためには、指導部内の派閥や党色による有害な争いを慎しむべきである。

労仂者はじめ全国民に対する生活と権利を脅迫する独占・反動の攻撃が苛烈化する現在、地域斗争の重要性を再確認し実践することが大切である。

どういう集約になったか

問題点を、総評常幹・各産業別・各県評・地区労で生かされるように、それぞれ具体化することが全員で確認された。

分裂組合の連繋強化が、さらに今後に期待されてきた。

春斗をめぐる 各単産の状況

今春斗の統一目標は、大幅賃上げ、最低賃金制、時間短縮、社会保障（医療費値上げ反対など）、ILO問題などであるが、公労協は昨年すでに要求（七千円）を提出、対当局、対政府交渉をすすめている。民間は例年どおり二月に要求提出、公務員共斗も三月段階で六五年度新賃金要求一律七千円賃上げを提出の態勢にある。

一方政府、日経連は、不況宣伝を強め、国民経済の生産性の伸び（就業者一人当りの実質国民総生産の上昇率）以下、つまり六%程度以下に賃上げをおさえることが望ましいとしている。

そのため春斗前段斗争として、政府日経連の不況宣伝をはね返し強力な実力行使を推進し得る内部態勢を三月中旬を目標に確立し、大衆行動をつみあげ春斗統一行動に発展させていく方針である。

全国統一行動

①春斗第一次全国統一行動、二月二五日に、単産は全組合員動員による時間外職場集会、地方共斗では屋外集会、中央では最大限動員による総決起大会（地方共斗より各一〇名の中央動員を行なう）を開く。

②第二次全国統一行動、三月一七日に、公労協は二時間、民間は半日以上の実力行使、各県、地域共斗では屋外集会、中央では大衆動員による総決起大会を行なう。

③第三次全国統一行動は三月下旬に行なう。

単産のとりくみ情況

▼交運共斗（二単産、八五万人）

一月一三日の中央単産委員長会議で①三月一七日ごろ、国労、動労、都市交は二時間、私鉄などは半日の第一次時限スト。②四月中旬を春斗最大のやま場とし、第一波と同規模の交通関係労組の第二波ストを実施することをきめた。

動労は一月一八日の中央委員会で、格差賃金（三千円引上げ）で二月中旬に時限スト。機関士、電車運転士など四万三千人が一斉に転転届けを出す方針をきめた。

▼全逓　二月上旬に公労委に調停申請。二月下旬に中央委員会を開き春斗方針をきめる。

▼全電通　昨年末、四千六百円プラス九%の基本給アップと現行賃金体系の改定計七千円の賃上げ要求を提出。年末斗争で「公社が自主的に責任をもって回答する」という確認をとりつけたが、二月中旬に年末斗争の総括と春斗の組織に関する中央委員会を開いて方針をきめる。なお、全専売その他の公労協諸組合も、ほぼ同じテンポでたたかいをすすめている。

▼金属共斗　一月二〇、二一日に全国代表者会議をもち、昨年の幹事会で採択された「金属共斗六五年春斗方針の要綱」の確認、金属共斗の共斗目標、統一行動強化について意志統一を行ない、二月段階にかけて共斗体制の確立をはかる。三月上旬に「金属労仂者要求貫徹総決起行動」を全国的に行ない、最賃制の全国行動に結合させて対政府斗争を高める。全金などでは三月一五日に第一波を予定しているが、全造船（三菱三重工合併後の最初の春斗）、鉄鋼など全体として昨春斗より困難な情勢にある。具体的なとり組みについては、全金は一月二三、二四日の大手集会、電機労連は二月六、七日、全造船は二月一〇、一一日、全電線は二月一八、一九日の中央委員会できめる。

▼鉄鋼労連　二月二七、二八日三月一日に臨時大会を開いて春斗方針をきめ、三月二日に要求五千円を提出する。三月上旬に金属共斗地区中央決起集会。三月二〇日にスト批准。

▼合化労連　二月四、五日臨時大会を開いて春斗方針をきめる。二月上旬に大部分は要求提出。三月上、中旬に回答。三月下旬から四月上旬に実力行使に突入の予定

総評・炭労春斗臨時大会開催

一、炭労第四三回臨時大会
▽とき＝一九六五年二月二八日から三月二日まで
▽ところ＝東京都千代田区三年町 全日通会館

二、総評第二七回臨時大会
▽とき＝一九六五年三月三日 三月四日
▽ところ＝東京虎の門久保講堂

主張

荒尾市長選挙から 何を学ぶべきだろうか

市長選挙の意義の重大さ

われわれは、一点突破のたたかいとして「市長選で勝利して春斗を力強いものに」という意義を訴えた。

しかし三井鉱山を中心とする独占と反動保守派は、われわれ以上に市長選の意義を重大視し周知のとおり、あらゆる不当をものともせぬ不法選挙を強行実施したのである。

円仏・古閑というかいらい市長を是が非でもデッチ上げ、新産都市建設というごまかしで、さらに大もうけをたくらむことだけでなく、高度経済成長と同じようにあまいムードで運れた市民層に仂きかけ「長いものにはまかれろ」式の反革新的イデオロギーを、この際強めようという思想工作が大々的に展開されたのである。

さらにこの過程で、組夫や第二組合員にめばえつつある不満と反抗とを徹底的に弾圧し、刈りとろうという政策に出たこともいうまでもない。

この選挙戦で、市民と第二組合員や組夫に「見はなされる」ことが、どんなに三井独占の痛手となるか、をかれらは真剣に恐れ、あのような不法選挙を敢えて強行したのである。

われわれはさらに前進しよう

われわれの戦術上、その他の反省も十分今後に生かさなければならないが、あらゆる弾圧と買収にもめげぬ一〇、六六七票は、いくら尊重してもし足りぬ貴重な味方である。

反三井・反独占に結集した三分の一のこの味方の力を、今後どう伸ばすか、どう強化するかを具体的に追及しなければならない。

第一に、不法な合理化攻撃をわれわれにかける三井独占は、三池労仂者だけの敵でなく、一人ひとりの市民の真の幸福をふみにじる敵であることを確認し生産点と地域での抵抗斗争を結合させ強化しよう。

第二に、この気違いじみた弾圧のなかで、われわれに同調した第二組合員や組夫の仲間たちがいることに自信をふかめ、より身近かな日常斗争をその場その場で積極化しよう。

第三に、われわれがこのような確認の下で今後たたかう限り冷酷で独善的な三井独占の支配を必ず排除できることを展望し反合理化・反独占斗争の真の意義につき、五人組で討議をふかめよう。

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話3033番 8100番
兼行人 澁田紀生

組合日誌（2月）

●2日　宮浦坑内二番時限スト＝132回
●3日　宮浦鉱内3番方別スト＝133回
●5日　宮浦鉱内常1番時限スト＝134回
●6日　四山坑内1番方・常1番時限スト、港務全方時限スト＝135回　本所全員時限スト136回　三川坑内常1番時限スト137回　宮浦坑内2番方時限スト、三川坑内2番方時限スト138回　四山・三川坑内3番方方別スト139回
●11日　宮浦・三川坑内2番方時限スト140回　宮浦3番方方別スト141回　三川3番方方別スト142回
●13日　四山坑内1番方時限スト143回　四山坑内3番方方別スト144回
●15日　三川坑内常1番・坑外全員時限スト145回　宮浦坑内常1・坑外全員時限スト　146回
●16日　宮浦坑内2番方時限スト147回